

'2015年採択 社会科全社 項目別対比表 歴史①

(本文中の・・は一部省略していることを示します。また、アンダーラインは引用者がつけたものです) 2015年6月 横浜教科書採択連絡会

項目\出版社	育 鵬 社 (新編 新しい日本の歴史)	帝 国 書 院 (社会科 中学生の歴史)	東 京 書 籍 (新しい社会 歴史)	教 育 出 版 (中学社会 歴史)
天皇と神話 (古事記・日本書紀)	神々の物語や代々の天皇の業績を記した『古事記』や、『日本書紀』(p48)・・こうしてカヤマトリレヒコミコは畝傍山のふもと <small>の</small> 橿原で即位し、初代神武天皇となるという物語です。なお、 <u>2月11日の「建国記念の日」は、神武天皇が即位したとされる日を記念したものです。</u> (p51)	<u>天皇が日本を治めることの正統性を明らかにしようとする動きも起こり、</u> 天皇家の由来を説明するための歴史書として『古事記』や『日本書紀』がつくれ、 <u>かずかずの神話がそこに記されました。</u> (p41) 欄外コラム:東アジア・太平洋地域・ヨーロッパの神話との類似性も	国家のしくみが整い、国際的な交流もさかんにになると、日本の国のおこりや、 <u>天皇が国を治めるいわれを確認しようとする動きが起こりました。</u> 神話や伝承、記録などをもとにまとめた歴史書の「古事記」と「日本書紀」・(p47) 神の子孫が天皇になって国を治めてきたと記され(p58)	神話や国の成り立ちを記した『古事記』『日本書紀』という歴史書(p39)『古事記』や『日本書紀』が伝える神話は、6~7世紀の朝廷が、主として大王による国土の統一と支配の正しさを主張するために <u>まとめたもので、すべてが歴史的な事実とはいえません。</u> (p48)
奈良時代の 民衆の生活	人々は戸籍に基づいて国から口分田をあたえられました。口分田(は)、6歳以上の全員にあたえられ、死後は国に返すきまりになっていました(班田収授法)。税には、「租・調・庸」があり、租は稲を納めるもので、地方で集められました・調や庸は・・農民の手で都に運ばれました。(欄外に負担の表。重税などの記述はない。)(p47)	税は・・租・調・庸の三つからなっていました。租は・・重い負担ではありませんでしたが、成人男性にかかる調(特産物)と庸(布)は、自分たちで都まで運ばなければならず、 <u>その負担は大変重いものでした。</u> その他、国の守りにつく兵役や、都や寺院をつくるための労役などが課されました。(庶民と貴族の食事復元写真、都までの日数も)(p36~37)	人々は、口分田の面積に応じて租を負担しましたが、このほかに一般の成人男子には、布や特産物を都まで運んでおさめる調、庸などの税や、兵役の義務が課されました。 <u>・・これらの負担をのがれるために、逃亡する者も出てきました。</u> ・・(奈良時代の人々の負担の表と解説、庶民と貴族の食事復元写真など)・・(p44~45)	班田収授の法により、6歳以上の男女に口分田が与えられました。口分田は、死亡した時には国に返させました。農民は、成年の男子を中心に、租・調・庸という税や、労役を負担しました。なかでも、 <u>調・庸は、都に運ばなければならず、地方の人々にとって重い負担でした。</u> 男子には兵役の負担もあり、防人として九州北部の守り・・(p40~41)
大日本帝国憲法	この憲法で、天皇はあらためて国の元首と規定され、各大臣の輔弼(助言)と責任により、憲法の規定に従って政治を行うものと定められました。・・国民は法律の範囲内で、言論や集会、信仰などさまざまな自由が保障されるとともに、納税、徴兵などの義務を負う・・ <u>この憲法は・・内外ともに高く評価されました。</u> 注①天皇は実際には政治的権限を行使することはなく、国家統治の精神的よりどころだった。(p184)	大日本帝国憲法では、 <u>主権は天皇にあると定められ、</u> 軍隊をひきいる権限や、条約の締結などの外交権、戦争の開始・終結の権限なども天皇にありました。帝国議会・内閣・裁判所のいづれもが、天皇の統治を助けるものとされました。一方、 <u>国民は天皇の「臣民」とされ、</u> 国民の言論・出版・集会・結社・信教の自由は、きびしい制限がつきながらも認められました。また、法律や予算は、帝国議会での承認が必要(p174)	憲法では、 <u>天皇が国の元首として統治すると定められました。</u> また、帝国議会の招集や衆議院の解散、陸海軍の指揮、条約の締結や戦争の開始、終了(講和)などが、天皇の権限として明記されました。・・また <u>国民は「臣民」とされ、</u> 議会で定める法律の範囲内で言論、出版、集会、結社、信仰の自由などの権利が認められました。・・(p172~173)	この憲法では、 <u>天皇が国の元首として軍隊を統率し外国と条約を結ぶなどの大きな権限をもち、</u> 憲法の規定に従って・・国を統治することとされました。・国民は、法律の範囲内という制約はありましたが、言論・集会・出版・結社・信仰の自由や、信書の秘密、所有権の不可侵が認められました。憲法の発布により天皇中心の国家のしくみが確立されるとともに国民にも国政への参加の道が開かれ(p168~9)
日露戦争と その影響	幕末以来、わが国の指導者や国民には、欧米列強の植民地にされるという根強い危機感がありました。しかしこの危機感は、日露戦争の勝利で解消し・・また、同じ有色民族が、世界最大の陸軍国・ロシアを打ち破ったという事実は、列強の圧迫や、植民地支配の苦しみにあえていたアジア・アフリカの民族に、 <u>独立への希望をあたえました</u> ・・ネルーや・・孫文は・・アジア諸国にあたえた感動を語っています(p192)	日本が日露戦争に勝利したことは、・・アジアの人々に独立への希望と自信を与えました。・・一方、日本人の間には、日清・日露戦争などに勝利するなかで、日本人はアジアのなかですぐれていると考える人が増えてきました。そして、 <u>アジア諸国の期待とは異なり、日本は韓国の植民地化を進め、陸軍・海軍の軍備を増強させるなど、帝国主義国としての動きを活発にしていきました。</u> (p182)	日露戦争での勝利によって、日本は列強としての国際的な地位を固めました。国民の中には、帝国主義国の一員となったという大国意識が生まれ、 <u>アジア諸国に対する優越感が強まりました。</u> ・・日本の勝利は、インドやベトナムなど、欧米列強の植民地であったアジアのさまざまな民族に刺激をあたえ、民族運動は活発化しました。しかし、日本は新たな帝国主義国としてアジアの民族に接することになり・・(p179)	日露戦争の勝利によって、日本も列強の仲間入りを果たしたという意識が国内に広がりました。また、 <u>列強の侵略や支配に苦しんでいた中国、インド、トルコなどの人々に希望を与え、アジア諸国で民族独立や近代化の動きが活発になりました。</u> 東アジアでの日本の影響力が強まるなか、欧米諸国は、日本の勢力拡大を警戒するようになりました。(p179)
韓国併合	更新された日英同盟や、ポーツマス条約でも、韓国に対する日本の保護権が認められました。その後、日韓協約に従って、日本が外交権を握ることになり・・1910年、政府は韓国併合に踏み切り、その統治のため朝鮮総督府を置きました・・わが国の朝鮮統治では、併合(旧版は <u>植民地経営</u>)の一環として近代化が進められましたが、米の作づけが強いられ・・日本語教育など同化政策が進められたので、朝鮮の人々の日本への反感は強まりました。(p193) ※欄外に生産増など示す統計	韓国を保護国として日本の支配下におき、・・のちには内政も支配し、韓国の軍隊・警察を解散させました。・・翌10年、日本は韓国を併合し、植民地としました(韓国併合)・・朝鮮では、近代化が進められ鉄道などが整備される一方、学校で日本語や日本の歴史・地理が教えられ、 <u>朝鮮の文化や歴史を教える機会は減らされました。</u> また土地調査の結果、所有者があいまいな土地は没収されたため、小作人となる者や、日本や「満州」に移住せざるをえない者が出ました。(p182~183)	日本は、1905年に韓国を保護国にして外交権をうばい、韓国統監府を置きました。・・1910年、日本は韓国を併合しました。・・首都の「漢城(ソウル)」も「京城」と改称させました。また強い権限を持つ朝鮮総督府を設置して、武力で民衆の抵抗をおさえ、 <u>植民地支配を推し進めました。</u> 学校では朝鮮の文化や歴史を教えることを厳しく制限し、日本史や日本語を教え、日本人に同化させる教育を行いました。植民地支配は、1945年の日本の敗戦まで続きました。(p180)	日本はその抵抗をおさえ、1910年、韓国を領有して朝鮮と改めました。これを韓国併合といいます。日本は、朝鮮に朝鮮総督府を置き、武力を背景に <u>植民地支配</u> を行いました。朝鮮では、朝鮮の人々を、天皇や国家に忠誠を誓う日本人と同じようにする、同化政策が進められました。学校では、朝鮮語や朝鮮の歴史より、日本語や日本の歴史、修身が重視されました。・・朝鮮の小作人などの農民は生活が苦しく、農村を離れたり、日本や満州に移住したり・・ (p180~181)
満州事変と満州国 ※柳条湖事件は 全社が記述している	中国では、国民党が中心となって、日本の中国權益の回収を求める排日運動が強化されました。・・関東軍は満州の主要都市を占領し、・・その翌年、清朝最後の皇帝であった溥儀を元首とする満州国を建国しました。・・新聞や世論はこの動きを熱狂的に支持し、政府の外交を弱腰だと批判し・・。・・実質的に日本の支配下に置かれた満州国では、 <u>政治や経済の整備が進められ、日本の企業が進出して重工業が発展し、日本の多くの農民も開拓民として入植しました。</u> (p227~228)	中国では、うばわれた主権を回復しようという声が高まり、・・南満州鉄道に並行する鉄道を建設する動きも起こりました。・・日本の軍隊(関東軍)は、・・「満州」全体を占領しました(満州事変)・・民衆の中にも、資源の豊かな「満州」を支配し、不景気を解決しようとする考えが広がっていきました。翌32年3月、日本は「満州国」をつくり、清の最後の皇帝の溥儀を「満州国」の元首としました。しかし、「満州国」の実権は日本がにぎっており、産業も支配していました。(p218)	中国において日本が持つ權益を取りもどそうとする動きがさらに強まると、関東軍は1931年9月18日に奉天郊外の柳条湖で南満州鉄道の線路を爆破し、これを機に軍事行動を始めました(満州事変)・・満州の主要部を占領した関東軍は、1932年3月、清の最後の皇帝であった溥儀を元首とする満州国の建国を宣言しました。日本が支配した満州国には、 <u>軍事的な目的もあって、日本からの移民が進められました。</u> (p218)	日本国内では「満州は日本の生命線である」として、武力を用いても日本の權益を守り、さらにそれを広げようとする主張が高まりました。・・日本軍(関東軍)は奉天付近の柳条湖で南満州鉄道の線路を爆破し、これを中国側の仕業であるとして攻撃を始め・・満州の大部分を占領し・・溥儀を元首とする「満州国」をつくらせ、 <u>多数の日本人が政府の重要な役職に就くなど、その実権を日本が握りました</u> ・・恐慌で苦しむ数十万人の農民が、日本から・移住しました。(p216)
南京大虐殺	欄外の注④ このとき、日本軍によって中国の軍民に多数の死傷者が出た(南京事件)。この事件の犠牲者数などの実態については、さまざまな見解があり、今日でも論争が続いている。(p229)	南京では、兵士だけでなく多くの民間人が殺害されました(南京事件)。注:この事件は諸外国から非難されましたが、日本国民には知らされませんでした。死者数をふくめた全体像については調査や研究が続いています。(p220) ※旧版は「南京大虐殺」で説明も詳細	日本軍は1937年末に首都の南京を占領し、その過程で、女性や子どもなど一般の人々や捕虜をふくむ多数の中国人を殺害しました(南京事件)。注①この事件は、「 <u>南京大虐殺</u> 」とも呼ばれます。被害者の数については・・未だに確定していません。(p220)	12月に占領した南京では、捕虜や住民を巻き込んで多数の死傷者を出しました。注:このできごと(南京事件)は、戦後の極東国際軍事裁判(東京裁判)で明らかにされました。犠牲者の数などについてはさまざまな説があります。(p219)
日本軍の東南 アジア占領	長く東南アジアを植民地として支配していた欧米諸国の軍隊は、開戦から半年で、ほとんどが日本軍によって破られました。この日本軍の勝利に、 <u>東南アジアやインドの人は独立への希望を強くいただきました。</u> ・インド兵の多くは・・インド独立軍に加わり、独立をめざして日本軍と行動をともにしました。ビルマでは・・ビルマ独立義勇軍がつくれ(p236)	日本軍は、初めは勝ち進み、シンガポールやインドネシア・フィリピン・ビルマ(ミャンマー)などを占領しました。日本は、・・「大東亜共栄圏」の建設をとねえ・・しかし、日本軍は、・・物資や食料を強制的に取り立てたり、軍の命令に従わない人々をきびしく処罰したりすることがありました。・・これらの地域でも抗日運動が起こりました。(p226)	日本軍は、短期間のうちに、東南アジアから南太平洋にかけての広大な地域を占領しました。日本軍は、労働を強制したり、物資を取り上げたりしました。そのため、現地の住民の日本への期待はじょじょに失われ、 <u>各地で抵抗運動が発生しました。</u> 日本軍は、抗日的と見なした人々を厳しく弾圧し、多くの犠牲者が出ました。(p225,227)	長い間、欧米諸国の植民地とされてきたアジアの人々は、当初、日本軍に植民地解放を期待しました。しかし、占領地では、住民に厳しい労働をさせたり、戦争に必要な資源や食料を取り立てたりしたほか、占領に反対する住民を弾圧することもありました。このため、 <u>日本軍に抵抗し、独立を目ざす運動が各地で強まっていきました</u> (p225)
沖繩戦と集団死	米軍は3月末以降、沖繩に上陸しました。・・はげしい地上戦がくり広げられ、日本軍は沖繩県民とともに必死の防戦を展開し、航空機による体当たり攻撃(特攻)や戦艦大和による水上特攻も行われました。・・日本側の死者は18万~19万人にのぼり、中学生や女学生で戦いに従軍して命を落とした人々や、戦闘がはげしくなる中で逃げ場を失い、集団自決に追い込まれた人々もいました。(p239)	3月26日、アメリカ軍が・・慶良間列島を確保し、4月1日には嘉手納・読谷に上陸・・5月末には日本軍は戦闘能力を失い・・沖繩島南部に退き・・多くの住民が日本軍によって食料をうばわれたり、砲弾のふり注ぐなか安全な壕を追い出されて犠牲になったりしました。・・人々が <u>集団死に追いこまれたり、禁止されていた琉球方言を使用した住民が日本兵に殺害されたりすることもありました。</u> (p230~231)	1945年3月、アメリカ軍が沖繩に上陸しました。日本軍は、特別攻撃隊(特攻隊)を用いたり、中学生や女学生まで兵士や看護要員として動員したりして強く抵抗しました。民間人を巻きこむ激しい戦闘によって、沖繩県民の犠牲者は、当時の沖繩県の人口のおよそ4分の1に当たる12万人以上になりました。その中には、 <u>日本軍によって集団自決に追い込まれた住民もいました。</u> (p229)	1945年3月、アメリカ軍が沖繩に上陸しました。・・中学生や女学生を含む多くの県民が、守備隊に配置されるなど、激しい戦闘に巻き込まれました。アメリカ軍の攻撃が続くなか、日本軍によって、集団で「自決」に追い込まれた人々もいました。・・戦闘は、日本が降伏したのちも9月7日まで散発的に続きました。この沖繩戦では、約60万人の県民のうち、死者が12万人に達しました。(p228)
日本国憲法	GHQは、わが国に対し憲法の改正を要求しました。日本側は、大日本帝国憲法は近代立憲主義に基づいたものであり、部分的な修正で十分と考えました。しかし、 <u>GHQは日本側の改正案を拒否し、自ら全面的な改正案を作成すると、これを受け入れるように日本側に強くせまりました。</u> 天皇の地位に影響がおよぶことおそれた政府は、これを受け入れ・・議会審議では・・議員はGHQの意向に反対の声をあげることができず、ほとんど無修正のまま採択されました。(p231)	政府原案・・では民主化が徹底されていないと判断したGHQは、日本の民間団体などの憲法草案も参考にしながら、 <u>みずから草案をつくって</u> 日本政府に示し、修正をうながしました。新しい政府案は、議会の審議を経て・・日本国憲法として公布され・・施行されました。日本国憲法は、三つの点で・・当時の国民の期待がもりこまれていました。①主権は国民にあること(国民主権)、②戦争をふたたび起こさないこと(平和主義)、③基本的人権を尊重すること(個人の尊厳)です(p240~241)	日本政府は初めにGHQの指示を受けて改正案を作成しましたが、大日本帝国憲法を手直したものにすぎませんでした。・・徹底した民主化を目指すGHQは、日本の民間団体の案も参考にしながら、自ら草案をまとめました。日本政府は、GHQの草案を受け入れ、それをもとに改正案を作成しました。・・帝国議会の審議を経て、・・日本国憲法が公布され、・・施行されました。新憲法は、国民主権、基本的人権の尊重、平和主義の三つを基本原理としました。(p244~245)	連合国軍総司令部は、日本政府に対し、憲法の改正を指示しましたが、政府の改正案は大日本帝国憲法の一部を修正しただけでした。そこで、 <u>連合国軍総司令部は、民間の憲法研究会案などを参考にした草案をつくって政府に示し、政府はこれをもとに新たな改正案を作成しました。</u> ・・議会での審議と修正を経て・・日本国憲法として公布され・・施行されました。日本国憲法は、国民主権・基本的人権の尊重・平和主義の三原則をかかげ、天皇は・・ (p238)

'2015年採択 社会科全社 項目別対比表 歴史②

(本文中の・・は一部省略していることを示します。また、アンダーラインは引用者がつけたものです) 2015年6月 横浜教科書採択連絡会

項目\出版社	自由社(新しい歴史教科書)	学び舎(ともに学ぶ人間の歴史)	清水書院(日本の歴史と世界)	日本文教出版(中学社会歴史的分野)
天皇と神話 (古事記・日本書紀)	日本の国の成り立ちは、8世紀に完成した日本でもっとも古い歴史書である『古事記』『日本書紀』に神話の形で書かれている。(p44) アマテラスは太陽を神格化した女神で、日本の最高神であり、皇室の祖先神とされている(p45)	奈良時代になって、中国にならった歴史書として「日本書紀」、神話の記録として「古事記」が完成しました。これらは、国の統一をすすめる目的でつくられたものですが、古くから伝えられた伝承もふくんでいました。太陽の女神とされる天照大神が、天から地上に神々を・・(p047)	朝廷では天皇家や貴族などに伝えられていた神話や地名などにまつわる伝承・記録などを、天皇を中心とした国の成り立ちとしてまとめなおし、8世紀はじめには『古事記』『日本書紀』として完成した(p42~43)。『風土記』と『記紀』神話のちがいを(p44)	律令国家のしくみが整うにつれて、 <u>国家のおこりや古代の国家の中心となる天皇の由来などを説明するために、『古事記』や『日本書紀』などの歴史書がつけられました。</u> 欄外:「これらは古代の人々の信仰や考え方を示すもので、なかにはアジア大陸や・・(p47)
奈良時代の民衆の生活	律令国家のもとでは、公平な統治をめざして、全ての土地と民を国家が直接おさめる公地公民の原則が打ち立てられた。・・6年ごとに改められる戸籍に基づいて、6歳以上の男女には <u>生活の基礎となる口分田</u> があたえられ、死後は国に返還された。口分田の支給を受けた公民は、租・調・庸とよばれる税をおさめた。(欄外に負担の表)(p63)	秋になると、ムラは税を納める準備に追われます。口分田に対する税は租といわれ、稲の収穫の3%ほどを地元の役所にとどけます。庸(麻布)・調(特産物)の品物を都へ運ぶ仕事もまっています。・・さらに人々にのしかかるのは、 <u>労役などの義務</u> です。人々は、各地の軍団の兵士とされ、東国の兵士は防人とされました。また、都で宮殿を守る・・(p45)	税としては、租・調・庸があり、強制的に種もみを貸しつけて収穫の5割の利息を取る出挙というしくみもあった。さらに、雑徭という地方での労役や、九州の防衛にあたる防人もあった。 <u>これらの負担は非常に重く、逃亡する農民も多かった。</u> その結果、荒れ果てて使用できなくなる口分田も増えた。欄外に:農民の苦しさ～貧窮問答歌～(p40~41)	人々には租・調・庸という税や、兵役・労役がかけられ、 <u>重い負担となりました。</u> このため、農地をすてて逃亡したり、朝廷の許しを得ないで税のかからない僧になったりする人々が現れました。(p41) 欄外注⑤調・庸の都への運搬日数(同) 奈良時代のくらし:貴族と庶民の衣食住の比較(p42)
大日本帝国憲法	大日本帝国憲法では、まず天皇が日本を統治すると定めた。その上で実際の政治は、各大臣の輔弼(助言)に基づいて行うものとし、天皇に政治的責任を負わせないこともうたわれた(注①)。国民は法律の範囲内で各種の権利を保障され、選挙で衆議院議員を選ぶことになった。・注①天皇は政治的決定権を持たないという意味をふくんでいた。下に囲み記事[憲法を賞賛した内外の声]・・(p186)	東京ではお祭りさわぎです。「奉祝門、照明、行列の計画。だが、こっけいなことに、だれも憲法の内容をご存じないのだ。」ドイツ人の医師ベルツは、日記にこう書き記しました。・・大日本帝国憲法は、天皇が主権をもつと定めています。天皇は神聖とされ、統治権と軍を指揮・統率する権限をもちました。 <u>国民は「臣民」とよばれ、納税や兵役、教育が義務とされ、法律の範囲内で権利があたえられました。</u> (p186~187)	大日本帝国憲法は、 <u>天皇にきわめて大きな権限をあたえた。</u> 天皇が主権者として立法・行政・司法および軍事のすべての権限をにぎるように定めた。しかし、それらは天皇の判断だけではなく・・、それぞれ国会・各大臣・裁判所・陸海軍の助けをえて行使されるように定められていた。・ <u>臣民(国民)に対しては・・身体・財産・信教の自由、言論・集会・結社の自由を法律の範囲内という条件で認めた。</u> (p184~185)	憲法では、 <u>主権は天皇にあり、天皇は政治責任を問われない存在で、国家の統治権を一手ににぎる国家元首</u> であると規定されました。さらに、陸海軍の最高指揮権(統帥権)や、議会の召集・解散、条約の締結、開戦や講和についても天皇の権限とされ、 <u>強大な権限が天皇に認められました。</u> ・・また、 <u>国民は天皇の臣民とされ、法のものとの平等が保障され・・法律の許す範囲内で・・権利も認め</u> 。(p187)
日露戦争とその影響	日露戦争は、日本の生き残りをかけた戦争だった。日本はこれに勝利して、自国の安全保障を確立した。近代国家として生まれてまもない日本の勝利は、西洋列強の <u>植民地</u> にされていた諸民族に、 <u>独立への希望を抱かせた。</u> ・・しかし他方、黄色人種は将来、白色人種の脅威となるという黄禍論が欧米に広がるきっかけにもなった。(p195)	日本とロシアはポーツマス条約を結び、戦争が終わりました。日本は、この条約で、朝鮮半島での優越権を、ロシアに認めさせました。・・つづいて日本は、 <u>韓国の外交権を奪って、保護国としました。</u> アジアでは、日本の勝利によって民族独立運動が盛んになりましたが、 <u>日本は、植民地や勢力範囲を、欧米諸国との間で認め合っていました。</u> (p199)	日露戦争は、おもな戦場が中国東北部で、日本が総力をあけて、かろうじて勝つことができた戦争であった。この戦争での日本の勝利は、白人でない民族の国が白人の国を打ち負かしたという点でヨーロッパ列強の圧政に苦しむアジア・北アフリカの人々を勇気づけた。しかしその後の日本のアジアでのふるまいはその期待を裏切るものとなった。(p193)	(直接言及なし)参考:「孫文と日本」・孫文は、帝国主義諸国の兄 亜侵略を強く批判し、近代化を果たした日本をたたえて、日中連携を中心にアジアの連帯をはかり、帝国主義諸国へ立ち向かう必要性を訴えました。・・「われわれがアジア主義を説き、アジア民族の地位を回復しようとするときには、仁義・道徳を基礎として各地の民族を連合し、アジア全体の民族が非常なる勢力を有する」(p195)
韓国併合	日本政府は、日本の安全と満州の權益を防衛するために、 <u>韓国の安定が必要である</u> と考えた。日露戦争後、日本は韓国統監府を置いて保護国とし、近代化を進めた。・・1910年、日本は武力を背景に韓国内の反対をおさえて、併合を断行した(韓国併合)。・・朝鮮総督府は、植民地政策の一環として、 <u>朝鮮の鉄道・灌漑施設をつくるなどの開発を行い、土地調査を実施した。</u> また、学校も開設し、日本語教育とともに、 <u>ハンダ文字を導入した教育を行った。</u> (p198~199)	1910年8月、日本は韓国を併合して韓国を朝鮮と改めて植民地とし、朝鮮総督府という役所を置きました。朝鮮総督には、日本の陸海軍の大將を任命しました。天皇が任命する朝鮮総督は、軍事権だけでなく、朝鮮の統治権をすべてにぎりました。・・学校では、修身と国語(日本語)が中心で、朝鮮語および漢文・算術・理科・唱歌・体操・図画・裁縫などの教科も教えました。子どもたちは、一部の教材をのぞいて、日本語で書かれた教科書で学びました。(p203)	日露戦争に勝った日本は、 <u>韓国の植民地化を進めた。</u> 1905年に外交権を奪って統監府をおいて保護国とした。韓国では抵抗運動が広がり、独立運動家の安重根は、初代統監の伊藤博文を中国東北部のハルビンで暗殺した。・・1910年に日本は韓国併合を強行し、朝鮮総督府をおき、武力によって支配しようとした。総督府は土地調査をおこない、村の共有地などは国有地とした。植民地の人びとも大日本帝国の臣民とされたが、 <u>日本人と同等の権利はもてなかった。</u> (p195)	日本は、1910年、軍隊の力を背景にして韓国を併合して植民地としました。これを韓国併合といいます。・・韓国は朝鮮と改められ、朝鮮総督府がおかれしました。総督は軍人が任命されて、軍事力を背景とした植民地支配をおしすすめ・・台湾と同様に、朝鮮の人々には選挙権が認められず、権利や自由も制限されました。学校では、日本語が国語として・・日本の歴史が強制的に教えられました・・土地調査事業で・・土地を失う農民も現れました。・・(p194~195)
満州事変と満州国 ※柳条湖事件は全社が記述している	中国人の排日意識が拡大した。列車妨害やテロ活動が頻発し、日本人住民の生命や安全がおびやかされた。(p229)。・・関東軍は・・全満州の主要部を占領した。満州で日本人が受けていた不法な被害を解決できない政府の外交方針に不満をつのらせていた国民の中には、 <u>関東軍の行動を支持する者が多く、陸軍には多額の支援金が寄せられた。</u> ・・満州は・・日本の <u>重工業の進出</u> などにより経済成長を上げた。しかし、 <u>反日・抗日運動も頻発した。</u> (p230~231)	中国では・・中国国民革命軍が、・・中国統一をめざす革命をすすめていました。・・1931年9月18日の夜、・・関東軍は柳条湖付近で、満鉄の線路を自ら爆破し・・これを中国軍の犯行であるとして・・中国軍を攻撃し、・・満州全域を占領し、1932年に満州国を建国させ・・ <u>実権は関東軍がにぎりました。</u> ・・日本の新聞は・・満州は日本のものだとする世論をつくりだしました。このころから、多くの人たちが農業開拓や新たな仕事を求めて、満州へ渡るようになりました。(p230~231)	国民政府は・・中国統一を果たすと、日本が所有する南満州鉄道や遼東半島にある日本の租借地を取りもどそうと主張するようになった。・・関東軍は、1931年、満鉄の一部をみずから爆破すると、これを抗日勢力のせいであるとして軍事行動をおこし、たちまち満州を占領した(満州事変)。・・翌年、関東軍は占領した地に清朝の最後の皇帝をむかえて満州国をつくった。 <u>満州国は独立国の形式をとっていたが、その実態は日本が支配していた。</u> (p230~231)	中国の人々のあいだに、 <u>排日機運が高まり・・列強が中国にもつ權益の返還を求める運動も広がりました。</u> ・・日本軍(関東軍)は、奉天付近で南満州鉄道の線路を爆破し、これを中国側の行動として出兵し、満州全土を占領しました(満州事変)・・[満州国]は、 <u>事実上、日本人が支配権をにぎり、後には、中国の人々から安く買い上げた土地に、日本の農民などを開拓民として集団移住させていきました。</u> また、 <u>重工業を中心に、満州に進出した企業もあり</u> ・・(p225~226)
南京大虐殺	全く記述なし。代わりに欄外の注で「通州事件」を書く。「通州には親日政権がつくられていた。日本の駐屯軍不在の間に、その政権の中国人部隊は、 <u>日本人居住区を襲い、日本人居留民385人のうち子どもや女性を含む223人が惨殺された。</u> 」(p233)	日本軍は12月、南京を占領しました。このとき、国際法に反して大量の捕虜を殺害し、 <u>老人・女性・子どもをふくむ多数の市民を暴行・殺害しました</u> (南京事件)。欄外資料:「銃剣を持った日本兵が家に侵入してきました。逃げようとした父は撃たれ、母と乳飲み子だった妹も」(p235)	南京占領の際には、 <u>兵士のほか、捕虜や武器を捨てた兵士、老人・女性・子どもを含む非戦闘員も無差別に虐殺され</u> (注2)、国民政府の臨時首都がおかれた <u>重慶への空爆でも多数の民間人が犠牲となった。</u> (注2)南京大虐殺とよばれる事件。・・(p232~233)	占領した首都南京では、 <u>捕虜のほか、女性や子どもを含む多数の住民を殺害しました</u> (南京事件)、注③:当時、この事件は日本国民には知らされませんでした。戦後、極東国際軍事裁判に当時尾調査資料が提出され、その後の研究で、部隊や将兵の日記。(p228)
日本軍の東南アジア占領	日本の緒戦の勝利は、白人の植民地支配に苦しんできた <u>東南アジアやインドの人々に、独立への夢と希望をあたえた。</u> 日本軍の破竹の進撃は、現地の人々の協力があってこそ可能だった。(p240) 囲み記事[アジアの人々をふるい立たせた日本の行動] 〔日本を解放軍として迎えたインドネシアの人々〕(p241)	日本軍はマレー半島で・・シンガポールとマラヤを占領・・ポルネオスマトラ・ビルマでは油田を接収し、またフィリピンやマラヤでは鉄鉱石の鉱山を接収して、 <u>重要な資源を獲得しました。</u> ・・日本は・・「大東亜共栄圏」をつくと宣言していました。しかし、むしろこの地域での <u>支配を強めたため、各地で抗日・独立運動が起こりました。</u> (p238~239)	日本の軍政は占領地の民衆を苦しめた。占領地の民衆の政治参加は限定的で、将来の独立を確実に約束したわけではなかった。もちろん、日本軍への批判や犯行は許されず、それぞれの民族の独自の文化も尊重されなかった。・・はじめは日本軍を解放軍として歓迎した民衆や政治指導者も・・ <u>抗日闘争がくり広げられた。</u> (p238~239)	日本は、 <u>東南アジアの人々に、欧米の支配を脱し、日本の指導下で栄えようとする「大東亜共栄圏」をつくろうと宣伝しました。</u> しかし、日本軍は、きびしい命令を下して資源や食料を取り立て、住民を戦争に協力させました。このため、住民の日本への期待はしだいに失われ、 <u>武力による抗日運動も行われるようになりました。</u> (p233)
沖縄戦と集団死	3月末、アメリカ軍は沖縄に攻撃を開始し、沖縄戦が始まった。この戦いで沖縄県民にも多数の犠牲がでた。日本軍と沖縄住民はよく戦った。注①沖縄の司令官大田実海軍少将は「 <u>沖縄県民かく戦えり。県民に対し後世特別の御高配あらんことを</u> 」と県民の献身的な協力と惨劇を本土に電報で伝え、自決した。(p244)	日本軍は、住民を防衛隊に組織し、中学生などを鉄血勤皇隊員にして日本軍の戦闘に参加させ・・ <u>女学生は学校ごとに看護要員にして、日本軍とともに行動させました。</u> ・・座間味島では、自決したとされる135人のうち、12歳以下の子どもが55人、女性が57人を占めていました。・・ <u>住民が日本軍に殺害される事件も起こりました。</u> その多くは、日本軍の情報を米軍にもらしたのではないかという疑い・・(p248~249)	3月末から沖縄に攻め入ったアメリカ軍が4月1日、沖縄本島に上陸し、はげしい地上戦がくり広げられた。この沖縄戦では、12万人以上の沖縄県民(うち民間人が9.4万人)をはじめ20万人をこえる人びとが命をうしなった。欄外:「捕虜になって悲惨な目にあうより自決せよ」と宣伝され・・兵士や役人などから配布された手榴弾などを用いて、家族を殺して一家自決・・ <u>集団自決へと追い込まれ</u> ・・(p242~243)	1945年3月、アメリカ軍は沖縄への上陸作戦を開始しました。日本軍は、中学生や女学生をも兵士や看護婦として動員し、戦いました。そのいっぽうで、多くの住民は、 <u>砲弾が飛び交うなかを逃げまどい</u> ・・この沖縄戦により、県民のおよそ4分の1に当たる12万人以上の人が命を落としました。その中には、 <u>日本軍によって「集団自決」に追い込まれたり、スパイと疑われて殺害された人もあり</u> ・・(p235)
日本国憲法	GHQは、大日本帝国憲法の改正を求めた。日本側は・・明治憲法に多少の修正をほどこすだけで求められる民主化は可能だと考えていた。しかし、GHQは1946年2月、わずか1週間でみずから作成した憲英文の法草案を日本政府に示して、 <u>憲法の根本的な改正を強く迫った。</u> 日本政府は、 <u>交戦権の否認</u> などをふくむ草案に衝撃を受けたが、拒否した場合、 <u>天皇の地位が存続できなくなることを恐れた。</u> そこで、 <u>政府はやむを得ずこれを受け入れ</u> ・・(p253)	政府がまとめた改正案は、天皇が統治権をもつなど、大日本帝国憲法とほとんど変わらないものでした。そこで、GHQは、憲法研究会の憲法案などを参考にしてGHQ草案をつくり、政府に示します。・・政府は、GHQ草案をもとにして、 <u>新たに憲法改正案を作成します。</u> 戦後初の選挙で選ばれた衆議院議員がこれを審議しました。このなかで、 <u>国民主権が明記され、生存権が定められるなど、重要な修正が加えられました。</u> (p260~261)	総司令部は、日本の民主化を進めるために、大日本帝国憲法の改正を政府に指示した。しかし、日本政府の作成した案は、 <u>統治権を天皇に置くなど、これまでの憲法とほとんど変わるところがなかった。</u> そこで総司令部は独自の改正案をつくり、政府に示した。・・政府は総司令部の改正案をもとに政府案をつくり、 <u>女性も参加した戦後初の選挙で成立した国会がこれを審議し、可決した。</u> ・・この憲法は、 <u>民間の改革的な意見が反映されていたこともあり、多くの国民に支持された。</u> (p250)	総司令部は、日本の民主化の基本として、日本政府に大日本帝国憲法の改正を命じ、政府は総司令部が作成した草案をもとに、改正案をまとめあげました。・・4月には、戦後初の衆議院総選挙が行われ・・開かれた国会に、政府は憲法改正案を提出し、改正案は4か月にわたる審議をへて可決されました。・・ <u>日本国憲法は、前文で、政府の行為によってふたたび戦争の惨禍を引き起こさないという国民の決意を示しました。</u> ・・国民主権・基本的人権の尊重・平和(p250)